

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 10月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	2071200311		
法人名	特定非営利活動法人北アルプスの風		
事業所名	北アルプスの家		
所在地	長野県大町市大町2769番地 1 (電話) 0261-26-5515		
評価機関名	コスモプランニング有限会社		
所在地	長野市松岡1-35-5		
訪問調査日	平成19年 9月20日	評価確定日	平成19年10月13日

【情報提供票より】 (平成19年 8月13日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	～	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	17,000 円
敷 金	有 ( 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要 (平成19年 8月13日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護 1	2	要介護 2	3
要介護 3	3	要介護 4	1
要介護 5	1	要支援 2	0
年齢	平均 82.4 歳	最低 65 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・医療法人社団厚生会横澤内科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅街の一角に、地域福祉に取り組んでいるNPO法人が運営する木造・和風のホームがデイサービスに隣接してある。玄関、ホール、居間など共用の場所には季節の花が飾られており、高い天窓からは陽の光が差し込み屋内全体を明るくさせている。また、中庭には沢山の鉢物が置かれるなど居心地よく過ごせる工夫がみられた。職員は「介護の仕事は感謝の仕事」と心得ており、入居者一人ひとりの力を把握し、できることは本人の意向に沿ってできるだけやって頂くように見守りを主に支援している。居室や廊下の壁には思い出の写真や職員手作りの壁新聞(外出した時や行事、誕生会など)が沢山張られていた。入居者はその写真をみては楽しんだり、その時のことを思い出している。家族や地域にむけた「北アル新聞」は開所以来欠かすことなく毎月発行されており、日常生活が写真もふんだんに綴られている。開放的な空間と入居者の尊厳を大切にしたい関わりとが相まって、法人の目指す「やすらぎと生きがいを感じられる地域福祉の構築」に着々と歩を進めていることが窺えた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況 (関連項目: 外部4)
	前回の要改善点のうち生活空間づくりについては季節の花を置いたり、飾り物をするなどの工夫がされていた。また、入居者の生活歴についても十分把握され、全職員で共有化しケアに活かしている。研修や勉強会についても内部、外部ともに強化されている。市町村等との連携も運営推進会議だけにとどまらず、ホームからの働きかけを積極的に行っている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況 (関連項目: 外部4)
	自己評価の全てに全職員は関わらなかつたが、要所要所の項目で関係職員が評価を行ったり、理事長、管理者等から意見等を求められた。評価の目的については充分理解されており、更なるサービス向上に役立てようとしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み (関連項目: 外部4, 5, 6)
	運営推進会議の委員は入居者代表、家族代表、地区代表、市担当部署の係等で構成されている。会議は、2ヶ月毎に開催され、活動内容を中心にグループホームへの入居方法や評価結果等について報告をしている。参加メンバーから貴重な意見や要望等もいただいております。ホームの運営に活かしている。地域包括支援センターにも運営推進会議の委員の派遣を依頼しており、協働体制に取り組む意向もある。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映 (関連項目: 外部7, 8)
	入居者、家族からの苦情は特にはない。機会があるたびに家族に要望や気になること等を伺いながらよりよいケアを提供できるよう努めている。頂いた意見や要望等についてはホームの会議で検討し、即対処するシステムが構築されている。時代に則し、ホームページにも書き込みができるようになってきている。
重点項目④	日常生活における地域との連携 (関連項目: 外部3)
	地域の自治会に加入し、行事や敬老会などには声がかかり参加している。また、ホームの納涼祭には、地域の方々にも少しでも多く参加してもらうための工夫を凝らし、期待以上の住民の参加があり、大盛況であったと伺った。新興住宅地に立地するホームであるが隣り合わせの昔からの地区に住んでいる方々との交流も盛んに行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者本位の生活が続けられるためのホームの理念がある。ホームページや玄関にも掲げられている。	○	地域の中でその人らしく生活し続けることを支援していく地域密着型サービスとしての役割が求められるようになりました。見直しをされる機会があれば、地域密着型サービスの役割を付け加えられることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	昼礼(ミーティング)や引継ぎ時には理念について話し合ったり、職員間で意見交換を行っている。職員のインタビューからも実践に繋がっていることが聴き取れた。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周りは新興住宅地であるが、昔からの住宅地と隣り合わせており、幅広くお付き合いをしている。自治会にも加入しており、老人会の敬老会等に呼ばれ交流している。ホームから働きかけて企画・実施している納涼祭にも地域住民の方の協力とともに大勢の方の参加をいただいている。地域のボランティアグループ、小中学校や幼稚園等とも定期的な交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の全てに全職員は関わらななかったが、要所要所の項目で関係職員が評価を行ったり、理事長、管理者等から意見等を求められた。評価する事で、自分たちの業務の見直しが出来たと伺った。		

グループホーム北アルプスの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月毎に開催している。活動内容を中心にグループホームへの入居方法や評価結果等について報告をしている。参加メンバーからの意見・要望等もいただいている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当部署や広域連合の職員の訪問がある。ホーム職員が登庁して入居者のことなどを報告したり相談している。介護相談員の訪問も受け入れておりサービスに反映している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	金銭については、領収書を添付し出納帳をコピーして、毎月発行されている新聞と一緒に家族に送っている。健康状態に関しては職員から個別に手紙を添えて家族に知らせている。新聞はご家族から非常に喜ばれている。入居者の関心も高く評判もよい。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、家族からの苦情は特にない。機会があるたびに家族には要望や気になることなどはないか伺うようにしている。ホームページへの書き込みが出来るようにも工夫している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を作ることを重視しており、職員の離職も少なくなっている。馴染みの職員が引き続き携わっていけるように職員の待遇にも配慮している。法人としてホームヘルパー養成もしていることから良い人材の確保に繋がっている。		

グループホーム北アルプスの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が運営しているデイサービスとの合同で毎月勉強会をしている。外部研修に参加した時は職員会議などで研修内容を報告し共有を図っている。職員の資格取得研修等への参加も促している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉に関しての人脈がある代表者の多方面の関わりがホームのサービスの質の向上に役立っている。長野県宅老所グループホーム連絡会に加盟しており、近隣のホームや宅老所との連絡・交流もしている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者が納得してサービスを開始できるように、馴染みの関係づくりを大切にしている。泊まりのお試し期間もある。法人運営の隣接デイサービスを利用しながら入居へと移行する方もいる。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や掃除のことなど、入居者と一緒に行いながら、時々入居者に教えてもらっている。職員は“介護の仕事は感謝の仕事”と心得、入居者を支えている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望は、入居開始時に本人や家族から聴取している。その後は日々の会話の中から聞き取りをしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の希望や意向の把握に日々努め、本人の生活歴や家族の要望を基に、個別に職員間で話し合い、入居者本位の介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね3ヶ月で見直しが行われている。状態が変わるなど、計画が続けられない場合には直ちに検討し直し、現状に即したものに作りかえている。家族にも報告し了承を得ている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買い物等に、家族が付き添えない場合には、職員が家族に代わって付き添っている。		



グループホーム北アルプスの家


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係はホーム入居後も続いている。日頃の様子を定期的にホーム側からかかりつけ医に報告している。必要に応じて医師から健康管理についての助言を得ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族の意向に沿う形でかかりつけ医と連携をとり、終末期介護を行った経緯がある。	○	終末期等に関して皆で話し合い、マニュアルや指針などを研究しながら理解を深め、入居者や家族の要望に応えられるよう今後取り組んで頂きたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーに配慮しながら支援を行っている。個人情報の取り扱いについては入居者家族に説明し、書面での確認も得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の大まかなスケジュールはあるが、利用者の要望や希望を聞きながら臨機応変に対応している。		

グループホーム北アルプスの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備はなごやかな雰囲気の中で行われていた。ホームの畑で育てた野菜や近所の方からのおすそわけの野菜を使い、食卓はいろいろな野菜の料理で彩られていた。全員が一同につける大きなテーブルで、おしゃべりしたり、楽しみながらの食事だった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴する人、2日に一度の人、または昼間入る人、夕方入る人とそれぞれであるが、入居者の希望を聞きながら支援している。浴槽はユニットバスのほかに檜の桶槽もあり、利用者の好みで使い分けている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割はいろいろあるが、盆栽、食事作り、畑仕事などを居者自身が自分の役割と決めて積極的に行っている。早朝5時頃から食事づくりに当る入居者もいる。サスペンス物を声を出して読んだり、テレビを夜10時頃まで見ている入居者もいるなど、一人ひとりのペースで生活している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々ホーム近辺を散歩している。花見や紅葉狩りなど四季折々の遠出もしている。また、隣接デイサービスの利用者と一緒に外出することもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は外出傾向の入居者もいて、見守りを行うことで鍵をかけることなく対応していた。入居期間が長くなるに従い、ホームを自分の住む場所と受け止められるようになり、落ち着いて生活できている。鍵をかけないケアを実践している。		

グループホーム北アルプスの家

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は入居者や併設デイサービスの利用者と一緒に年2回行なっている。自治会にも災害時の協力をお願いしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が個別に記録されている。栄養バランスなどに関しては栄養士に相談する方向で検討している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、居間など共用の場所には、季節の花が飾られている。天窓から陽の光が差し込み屋内全体を明るくさせている。また、中庭には沢山の鉢物が置かれるなど居心地よく過ごせる工夫がみられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、家族の協力を得ながら、一人ひとりが気分よく過ごせるように使い慣れたものや衣類が持ち込まれていた。居室の壁には思い出の写真や職員手作りの壁新聞(外出した時や行事、誕生会など)が沢山張られていた。入居者はその写真をみても楽しんだり、その時のことを思い出している。		

※  は、重点項目。